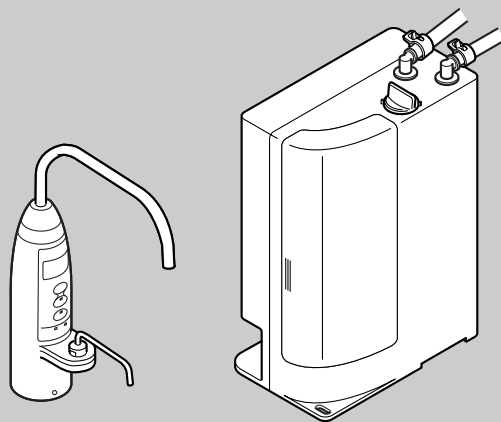


National



アンダーシンクアルカリ **家庭用**

工事説明書

品番 PJ-AS500

上水道専用

工事は、この説明書に従って正しく行ってください。

- 配管工事はすべて建築基準法、水道法、各都市の条例規定に準じて行ってください。
なお、シンクの種類、フロアキャビネットの組み合わせによって、配管接続方法が異なりますのでご注意ください。

最終点検(水漏れ、動作および通水量確認)は、必ず行ってください。

工事終了後、取扱説明書・保証書・グリセロリン酸カルシウム製剤・pH測定試薬セットおよび工事説明書は必ずお客様にお渡しください。

地域・水質によっては、指定のpH値が得られないことがあります。特に地下水を水源とした地域では、設置前に酸度測定試薬で測定してください。

正しい設置をされなかった場合の製品の故障および事故について、当社は責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。



も く じ

	ページ
安全上のご注意	2
工事上のお願い	5
付属部品一覧	6
工具一覧	6
工事の概要	8
工事の前に(必ず確認してください)	9
コンセントの取り付け	12
止水栓の取り付け	13
ワークトップへの穴あけ	14
アルカリ用水栓の取り付け	15
アルカリ本体の設置と接続	16
アルカリ用水栓をキャビネット外(配管スペース)に取り付ける場合	19
アルカリ本体の固定/ずれ防止について	20
最終点検(水漏れ、動作および通水量確認)	21
最終点検チェックリスト/配管方式について(参考)	裏表紙




安全上のご注意 必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。








表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

	警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
	注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。(下記は絵表示の一例です。)

	この絵表示は、気をつけていただきたい「注意喚起」内容です。
	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

警告

<p>飲用に合格した水(水道水など)以外には使用しない</p> <p> 殺菌能力がなく、有害物質が除去できないため、飲むと体調を損なう原因になります。</p> <p style="text-align: center;">禁 止</p>	<p>設置は、この工事説明書に従って、確実に行う</p> <p> 設置に不備があると、火災・感電・事故の原因になります。</p>
<p>コンセントの設置は、電気設備技術基準や内線規程に従い、安全、確実にを行う</p> <p> 誤った電気工事は、感電や火災の原因になります。</p> <p>●コンセントの設置は、電気工事士の方が行ってください。</p>	<p>コンセントや配線器具の定格を超える使いかたや、交流100V以外での使用はしない</p> <p> たこ足配線などで定格を超えると、発熱による火災の原因になります。</p> <p style="text-align: center;">禁 止</p>
<p>電源コードを、ステーブル()などで固定しない</p> <p> 電源コードが破損し、火災・感電の原因になります。</p> <p style="text-align: center;">禁 止</p>	<p>配管部以外は、絶対に分解したり、修理・改造はしない</p> <p> 火災・感電の原因になります。</p> <p style="text-align: center;">分解禁止</p>

警告

電源コード・電源プラグを破損するようなことはしない

- (・傷つける ・加工する ・熱器具に近づける ・無理に曲げる ・ねじる ・引っ張る
 ・重い物を載せる ・束ねる ・はさみ込むなど)



禁止

傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になります。

電源プラグは、根元まで確実に差し込む



差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。

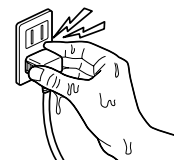
- 傷んだプラグ・ゆるんだコンセントは使用しないでください。

ぬれた手で電源プラグの抜き差しはしない



ぬれ手禁止

感電の原因になります。



注意

ワークトップ(カウンタートップ)の穴あけには、材質に合った工具を使う

- (天然大理石、ホーローなど特殊なものについては、キッチンメーカー指定の工事方法で行ってください。)

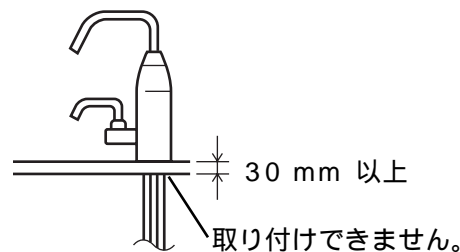


無理に穴あけをしようとすると、ワークトップ(カウンタートップ)を破損する原因になることがあります。

ワークトップ(カウンタートップ)が厚さ 30 mm 以上の場合は、穴あけしない



禁止



取り付けができませんので、万一、穴をあけた場合に補償問題になることがあります。

ワークトップ(カウンタートップ)や流し台(キャビネット内)に穴をあけるときは、屋内配管を傷つけない



禁止

万一、水漏れが起こると、大きな補償問題になることがあります。

一次給水側は、特に水漏れがないように確実に接続する



万一、水漏れが起こると、大きな補償問題になることがあります。

安全上のご注意 必ずお守りください

⚠ 注意

本器は、アルカリ本体・付属の水栓および設置部材をセットで使用する



万一、水漏れが起こると、大きな補償問題になります。

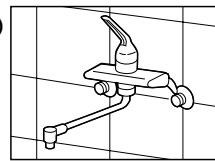
- アルカリ本体およびアルカリ用水栓を、単独で使
用しないでください。

壁面取付タイプの水栓には、取り付け
ない



禁 止

(例)



配管が不明確なので、取り付けができなかったとき
に補償問題になります。

アルカリ用水栓の先に他の機器を接
続しない



禁 止

アルカリ本体の二次側に異常な水圧が
かかり、水漏れの原因になることが
あります。

アルカリ本体は平らな場所に設置する



不安定な場所に設置すると、けがの
原因になることがあります。

ホース類を、折り曲げたり、ねじっ
たり、ひっぱったりしない



禁 止

水漏れの原因になることがあります。

配管は、水漏れのしないよう確実に
特に固定金具(クイックファスナー)
などは、確実に取り付ける



確実に接続されていないと、ホースが
はずれて漏水し、家財などをぬらす原
因になることがあります。

先止め方式(裏表紙参照)の配管に改造しない



禁 止

アルカリ本体に常時水圧がかかり、ウォーターハンマーなどにより、水漏れの原因になります。
万一、水漏れが起こると、大きな補償問題になることがあります。

最終点検時は、アルカリ用水栓を含む配管接続部全体の水漏れ点検を十分に行う



万一、水漏れが起こると、大きな補償問題になることがあります。

工事上のお願い

次のような場所には設置しないでください。(故障の原因になることがあります。)

- 高温部(40 以上)の近く
- 浴室や水・蒸気のかかる所
- 屋外や風雨にさらされる所
- 油の付着する所
- 凍結の可能性のある所(本器は寒冷地仕様ではありません。)

配管工事はすべて建築基準法、水道法、各都市の条例規定に準じて行ってください。

なお、シンクの種類、フロアキャビネットの組み合わせによって配管接続方法が異なります。

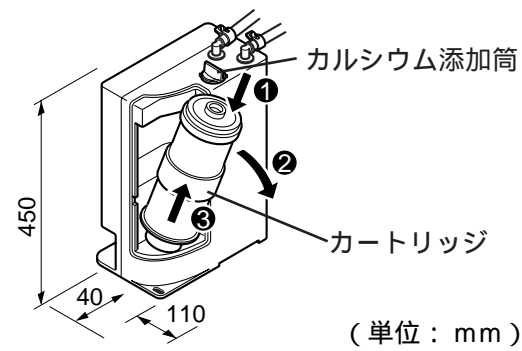
水道法基準適合の認証登録品ですので、必ずアルカリ本体、付属の水栓、設置部材セットでご使用ください。

アルカリ本体を設置する前に、電源コンセント(交流 100 V)をキャビネット内部に取り付けてください。

(キャビネット内部に取り付けできない場合は、12 ページの「キャビネット内にコンセントが固定できない場合」を参照してください。)

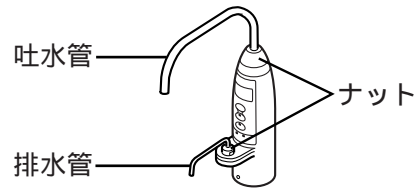
設置場所は、流し台(キャビネット内)に取り付ける棚やオプションの位置によって決めますが、必ずお客様とご相談のうえ、カートリッジ交換およびカルシウム添加が容易な位置に設置してください。

(最低でも右記寸法のスペースが必要です。)



アルカリ用水栓の吐水管と排水管のナットは、工具で締め付けしないでください。

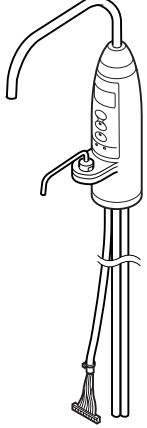
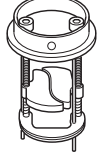
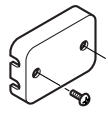

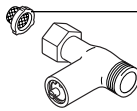
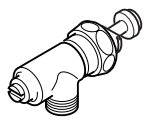


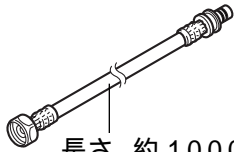
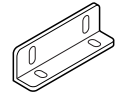
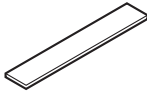


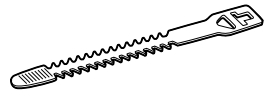
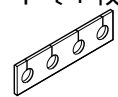


(破損・水漏れの原因になることがあります。)




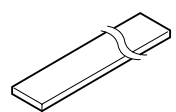
工事の際に、流し台の構造や材質などの確認が必要になった場合は、キッチンメーカーへお問い合わせください。

付属部品一覧

次の付属部品を確認してください。

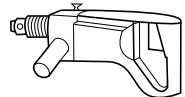
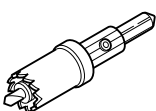

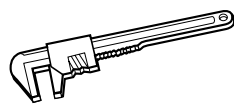
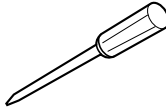
アルカリ用水栓〔1本〕 	水栓固定金具〔1個〕 	コネクターカバー〔1個〕 (ねじ2本付き)  ねじ (テープ止めしています。) 	止水栓〔1個〕 (逆止弁付・呼び径1/2) フィルター付 パッキン〔1個〕 (止水栓の中に装着され、 テープ止めしています。) 
	分岐金具〔1個〕 (呼び径1/2) 	固定金具〔1個〕 (抜け止めカバー付き) 固定金具 (クイックファスナー No.8)  抜け止めカバー 	給水ホース〔1本〕 (呼び径1/2) 長さ 約1000mm 
L字金具 (本体ずれ防止用)  〔1個〕	粘着テープ (L字金具固定用)  〔1枚〕	ホース締付バンド [大・1個、小・1個] 	配管接続用パッキン 〔1個〕 
ホース固定バンド〔2本〕 	防虫シート〔1枚〕 	pH測定試薬セット〔1個〕 	タッピンねじ〔2本〕 
取扱説明書一式 [取扱説明書、保証書、グリセロリン酸カルシウム製剤 (1袋)]、工事説明書			

流し台や配管方法によって必要な部品 (別途準備してください。)

給水ホースを延長する場合 ●フレキ管(SUS. 呼び径1/2) または ステンレス製ブレードホース(呼び径1/2)水道法適合品で 防錆用の被覆があるものをご使用ください。 ●フレキ管用ニップル(呼び径1/2)  パッキン	ステンレス製のワークトップで補強板が付いていない場合補強板が付いていても、ワークトップとの厚さが5mm以下の場合 ●補強板(厚さ10mm~15mm) 
---	--

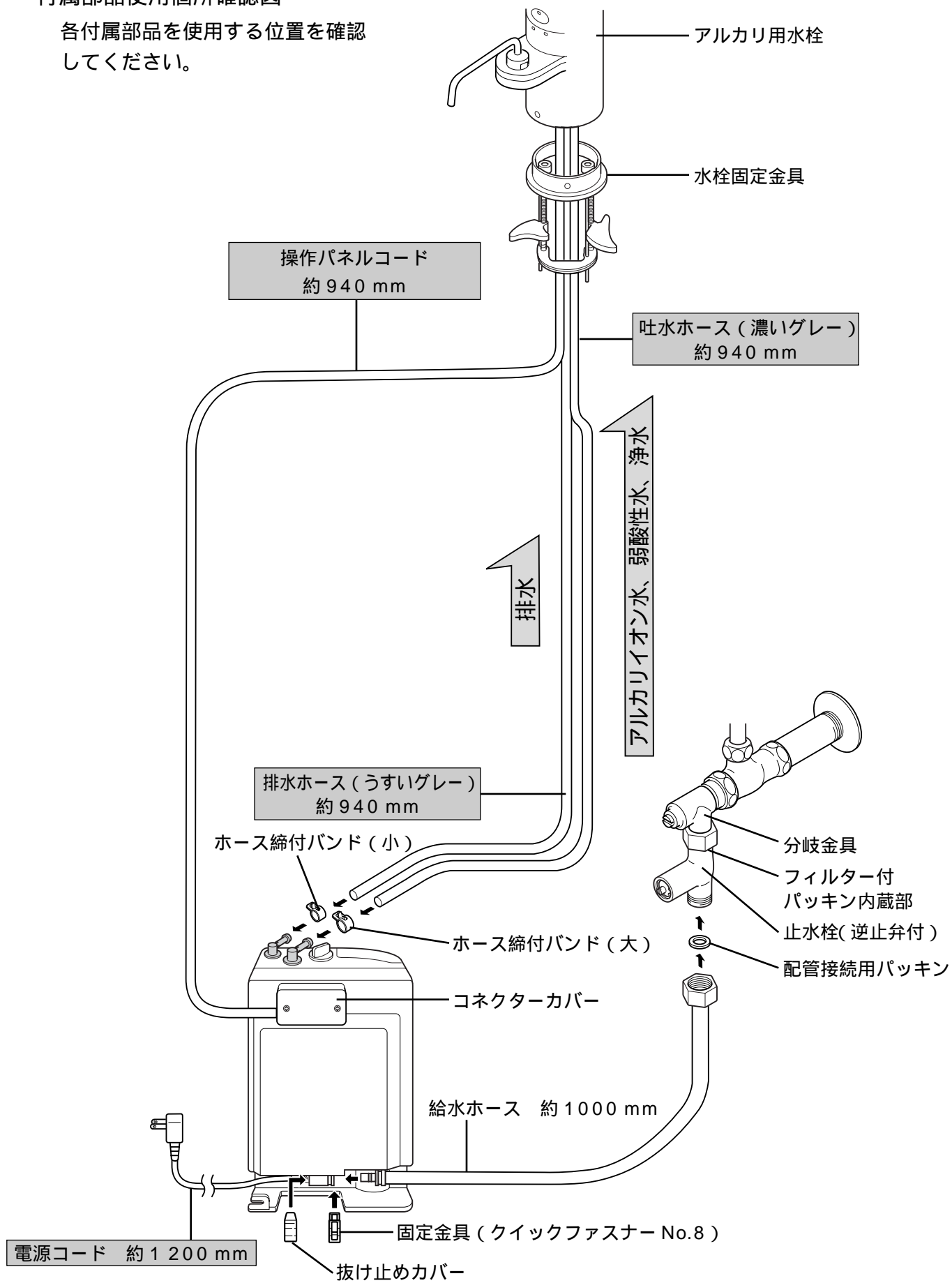
工具一覧

工事には、下記の工具が必要です。(別途準備してください。)

電動ドリル 	ホールソー サイズ 35 ~ 39 27 ~ 29 	六角レンチ サイズ 2.5 mm 4 mm 
ワークトップの穴あけや、配管・コード用の貫通穴をあける場合に使用します。		
モーターレンチまたはモンキーレンチ 	⊖ドライバー 	●スケール ●ハサミ ●カッター ●ヤスリ ●ペンチ

付属部品使用箇所確認図

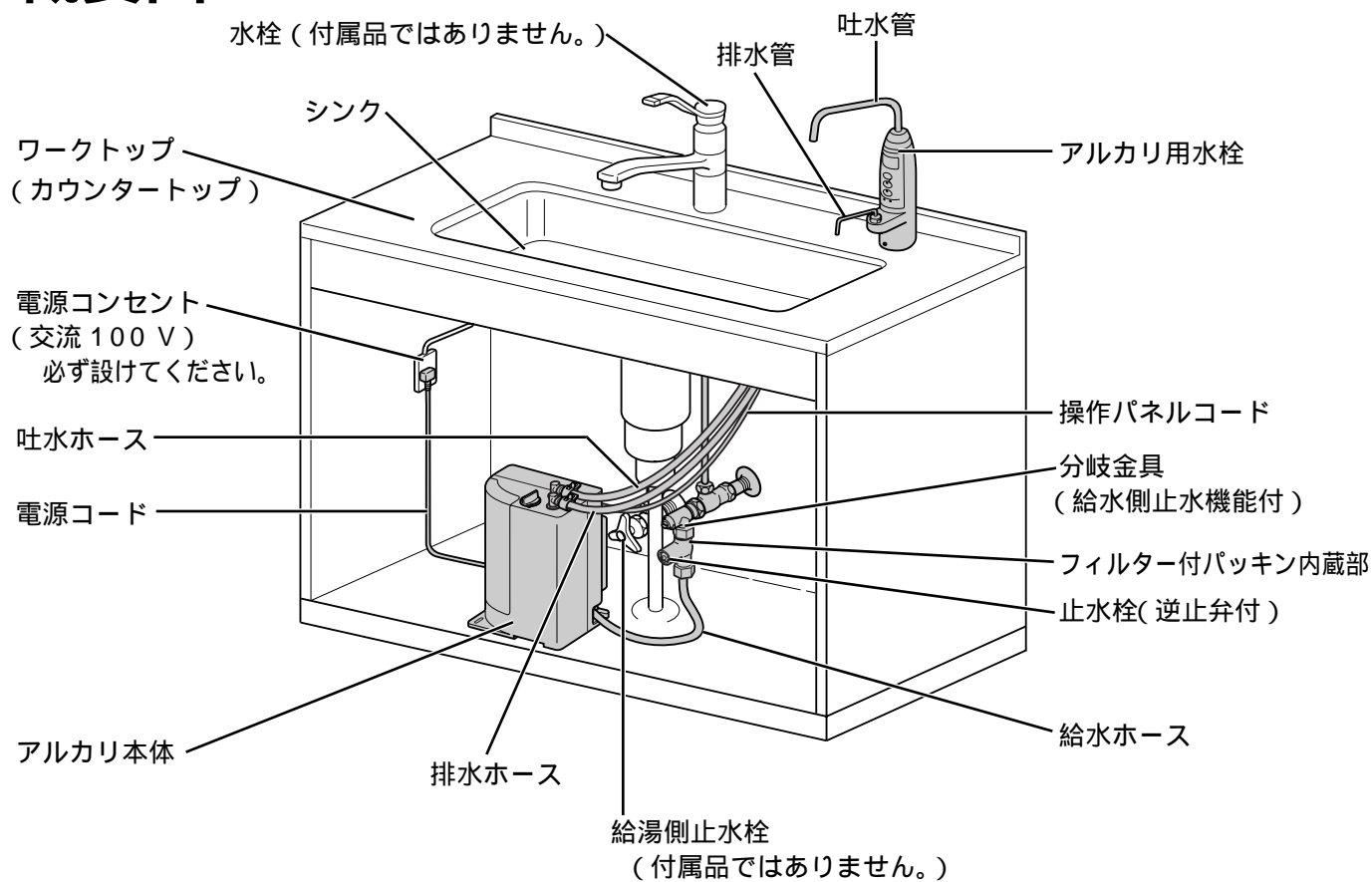
各付属部品を使用する位置を確認してください。



工事の概要

	参照ページ
工事の前に（必ず確認してください）	9 ~ 11
コンセントの取り付け	12
止水栓の取り付け	13
ワークトップへの穴あけ	14
アルカリ用水栓の取り付け	15
アルカリ本体の設置と接続	16 ~ 20
アルカリ用水栓をキャビネット外(配管スペース)に取り付ける場合	19
アルカリ本体の固定または、ずれ防止が必要な場合	20
最終点検（水漏れ、動作および通水量確認）	21 ~ 23

概要図



工事の前に（必ず確認してください）

チェック欄にチェックしながら、必ず確認してください。

ワークトップ(カウンタートップ) チェック
 の材質を確認する

材質によっては、穴があけられない場合があります。付属の「穴あけ加工可否分類」を参照し、穴があけられるか、必ず確認してください。

注意 チェック

ワークトップ(カウンタートップ)が、厚さ 30 mm 以上の場合は、穴あけしない

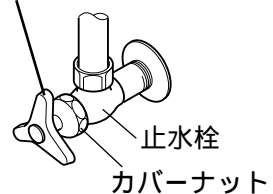
禁止  

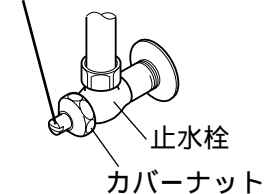
30 mm 以上
 取り付けできません。

取り付けができませんので、万一、穴をあけた場合に補償問題になることがあります。

給水側止水栓のタイプを確認する チェック
 カバーナットが付いていない止水栓には、分岐金具が取り付けられません。

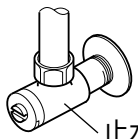
取り付けできるタイプ

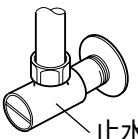
ハンドルタイプ  止水栓
 カバーナット

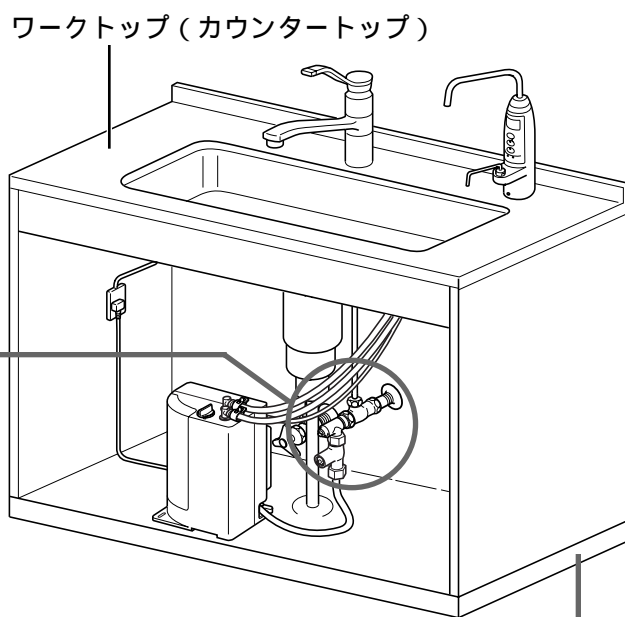
マイナス溝タイプ  止水栓
 カバーナット

取り付けできないタイプ

内ネジタイプ(カバーナットが付いていないタイプ)

 止水栓

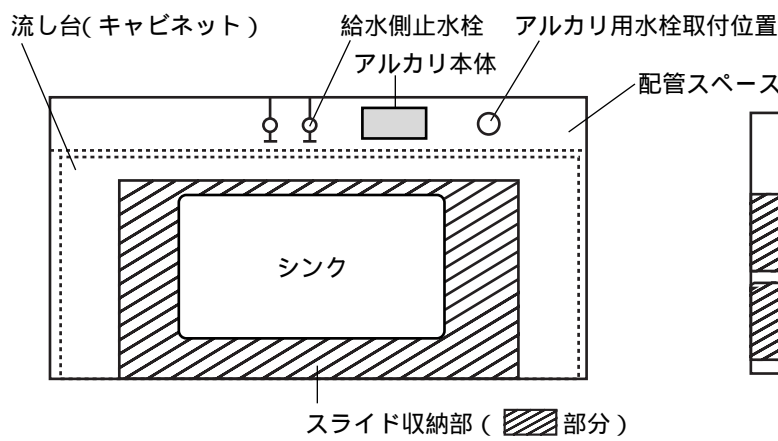
 止水栓

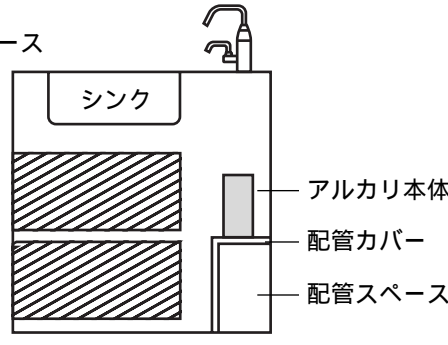


流し台のタイプを確認する(下図は一例です。設置できないキャビネットもありますのでキッチンメーカーにご確認ください。)

スライド収納式のキッチンには、アルカリ本体をキッチンの配管カバー上に置きます。
 [アルカリ本体が不安定なときは、本体の固定または、ずれ防止を行う必要があります。(20ページを参照)]

チェック

流し台(キャビネット) 

シンク 

アルカリ本体
 配管カバー
 配管スペース

(次ページへつづく) 9

工事の前に（必ず確認してください）

事前に酸度測定試薬(別売品番：P JW-T8667)で、水質の確認が
終わっていない場合は、水質の確認をする

チェック

地域(特に地下水を水源とした地域)・水質によっては、指定のpH値が得られないことがあります。

アルカリ用水栓の位置決めのポイント

後板にあたらぬ所

シンクポケット(石けん、洗剤入れ)にあたらぬ所

水栓にあたらぬ所

水がシンクの中に流れる所

- アルカリ用水栓のセンターからシンクまでが、約40mm ~ 120mmの位置に設置する

- 点検口から工事ができる位置(300mm程度)キッチンメーカーの施工説明書に従ってください。
- 水栓底部がワークトップの段差や曲面に乗り上げない位置

裏側にシンク固定金具がない所

ステンレス製のワークトップで補強板が付いていない場合、また補強板が付いていても、ワークトップと合わせた厚さが5mm以下の場合...補強板が必要です。

35 ~ 39穴

厚さ10mm ~ 15mm

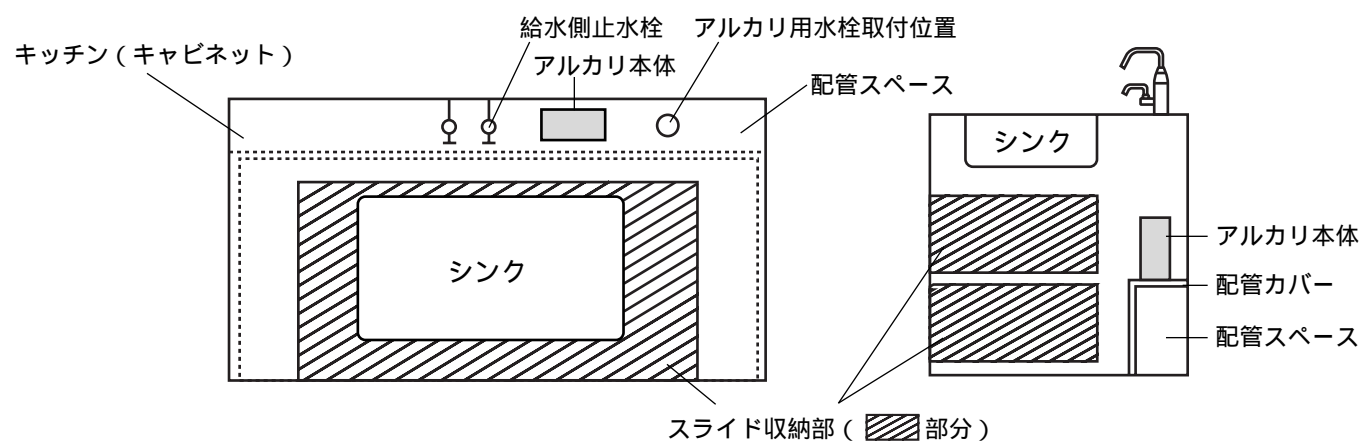


イラストは、右側にアルカリ用水栓を設置した場合を使用して説明していますが、左側に設置する場合も、位置決めのポイントや工事の手順は同じ要領です。

スライド収納式のキッチンについて

キッチンの配管カバー上にアルカリ本体を設置する場合があります。スライド収納の引き出しをはずしてから工事を行ってください。


〔アルカリ本体が不安定なときは、本体の固定または、ずれ防止を行う必要があります。(20ページ参照)〕




- スライド収納の引き出しの取りはずし、取り付けはキッチンの取扱説明書に従い、正しく行ってください。

コンセントの取り付け

キッチンのキャビネット内または配管スペースに、本体電源用のコンセント(AC100V)が必要です。

電線は、後板の  の範囲内から 1.5 m 以上引き出してください。

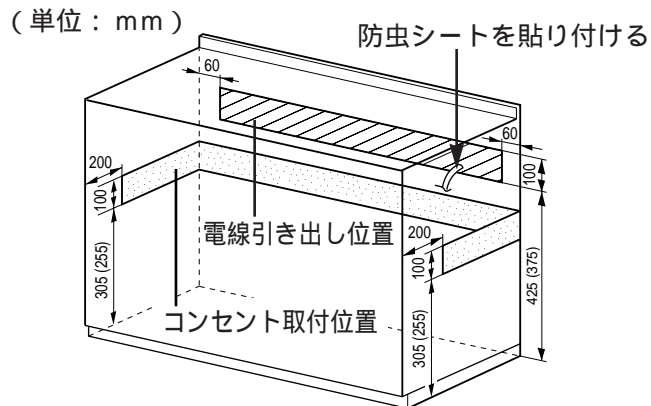
コンセントは、キャビネット庫内の  の範囲内で、アルカリ本体設置側に取り付けてください。

電線引き出し位置・コンセント取付位置は、キッチンの高さに合わせて調整してください。

指定の範囲に取り付けできない場合は、電源プラグがすぐに取りはずせる位置を選んで、コンセントを設置してください。

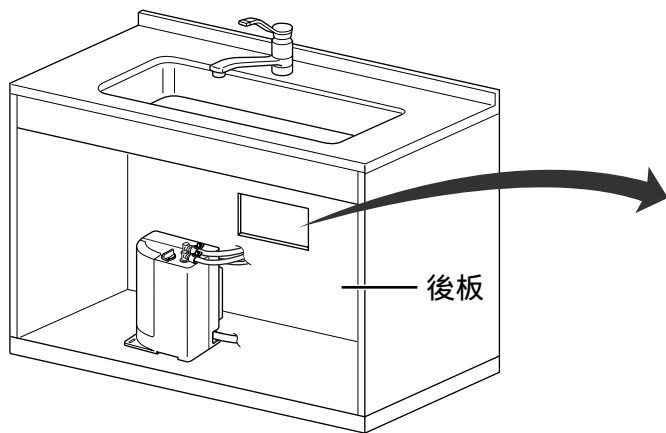
電線を引き込んだ穴には、防虫シートを貼り付けてください。

(付属の防虫シートを切って、使用してください。)




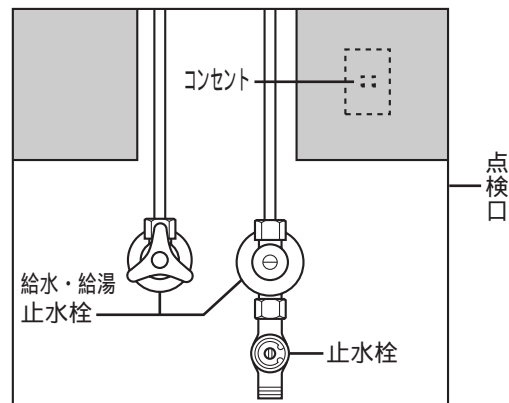
() 寸法はキッチンの高さ 80 cm の場合

キャビネット内にコンセントが固定できない場合



キャビネット外(配管スペース)にコンセントを取り付けてください。

点検口  範囲内に設置してください。



次のような場所に設置してください。

- 止水栓より上部
- 電源プラグの抜き差しがしやすいところ
- 配管からの水漏れ・結露水がコンセントにかからないところ

注意

配管スペースにコンセントを設置する場合、点検口のふたは、ネジ止めなど取りはずしに工具が必要な固定をしない



禁止

万一の異常発生時に、電源プラグが抜けず、漏電・発火の原因になることがあります。

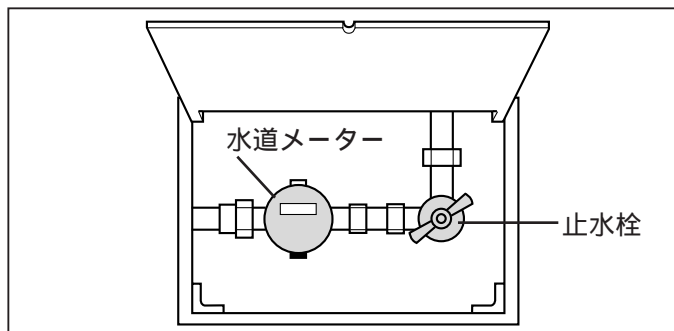
止水栓の取り付け

分岐金具(付属部品)を使い、給水側止水栓に止水栓(付属部品)を取り付けてください。

給湯側止水栓には、取り付けないでください。

1 水道メーターの止水栓を閉じる

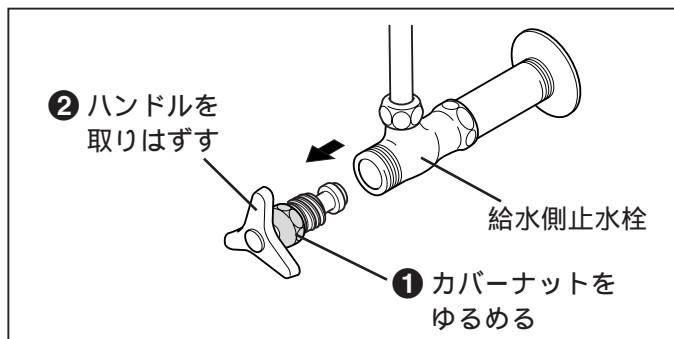
水栓から水が出ないことを、必ず確認してください。



2 給水側止水栓のハンドルを取りはずす

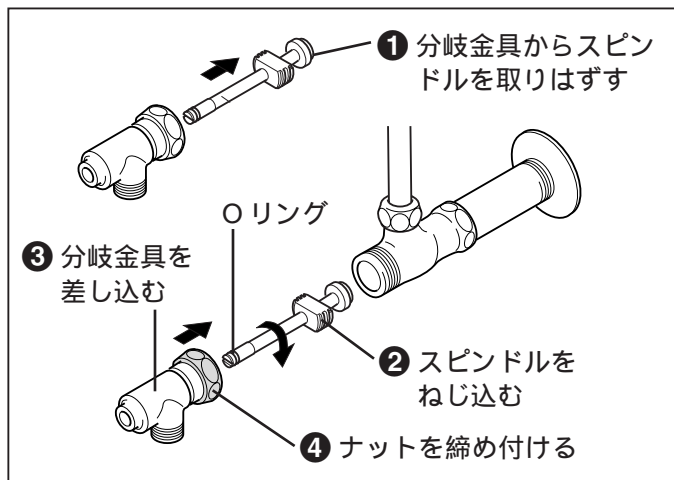
ハンドルを取りはずすと、給水側止水栓から水がこぼれますので、洗面器などで水を受けてください。

取りはずしたハンドルは、捨てずに保管しておいてください。



3 分岐金具(付属品)を取り付ける

Oリングに、傷やごみを付けないようにしてください。



4 分岐金具に止水栓(付属品)を取り付ける

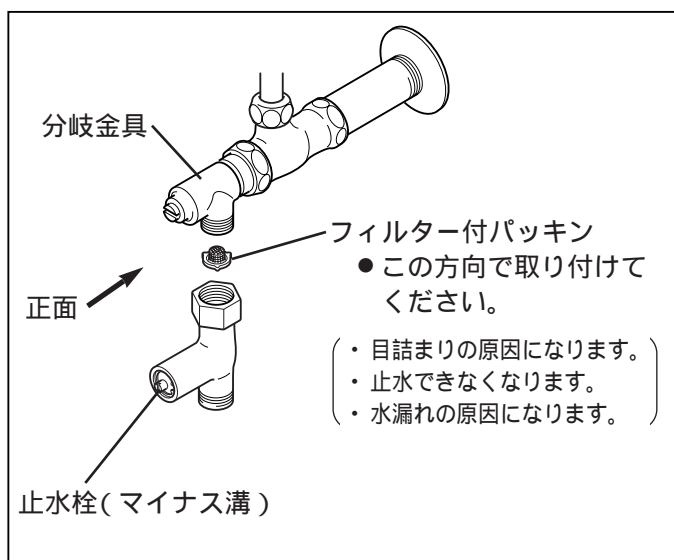
メンテナンス時に操作しやすいように、止水栓(マイナス溝)を、正面に向けて取り付けてください。

フィルター付パッキンは必ず取り付けてください。

取り付けしていないと、アルカリ本体内蔵の電磁弁が目詰まりして止水できなくなります。

フィルター付パッキンは、右図の向きに取り付けてください。

逆向きに取り付けると、フィルターが目詰まりしやすくなります。また、水漏れの原因になります。



ワークトップへの穴あけ

ワークトップ(カウンタートップ)に、アルカリ用水栓を取り付けるための穴をあけてください。

止水栓を取り付ける前に、ワークトップに穴をあけないでください。

(給水側止水栓のタイプによっては、分岐金具が取り付けられません。9ページ参照)

ワークトップに穴をあける際は、アルカリ本体や止水栓に切りくずが入らないようにしてください。

(通水路に切りくずが入ると、故障や水漏れの原因になります。)

電気ドリルは回転式で、使用するホールソーに適したものをご用意ください。

インパクトドライバーや振動ドリルなど、たたきつけながら穴をあける工具は、使用しないでください。

(ワークトップが変形・破損する原因になります。)

工具を、無理な力でワークトップに押し付けしないでください。

(ワークトップが変形・破損する原因になります。)

硬い人工大理石カウンターの場合は、予備の工具(ホールソー替刃)をご用意ください。

(刃が磨耗して、穴あけしにくくなります。)

ワークトップの厚みを考慮し、厚さ 30 mm に対応できる工具を使用してください。

注意

ワークトップ(カウンタートップ)の穴あけには、材質に合った工具を使う

(天然大理石、ホーローなど特殊なものについては、キッチンメーカー指定の工事方法で行ってください。)



無理に穴あけをしようとすると、ワークトップ(カウンタートップ)を破損する原因になることがあります。

ワークトップ(カウンタートップ)が厚さ 30 mm 以上の場合は、穴あけしない

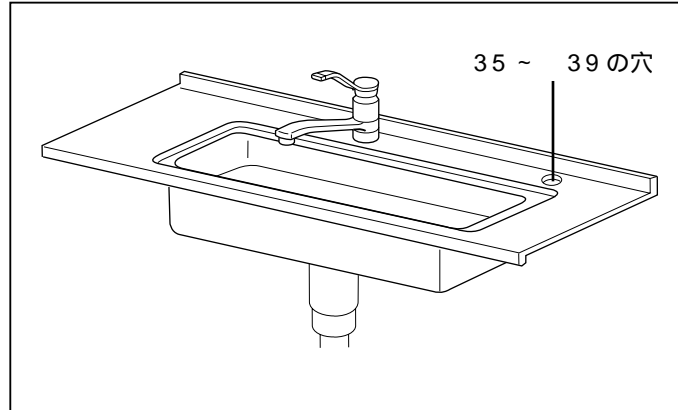


禁止

取り付けができませんので、万一、穴をあけた場合に補償問題になることがあります。

1 穴をあける位置を決める

10ページの「アルカリ用水栓の位置決めポイント」を参照し、穴をあける(アルカリ用水栓を取り付ける)位置を慎重に決めてください。



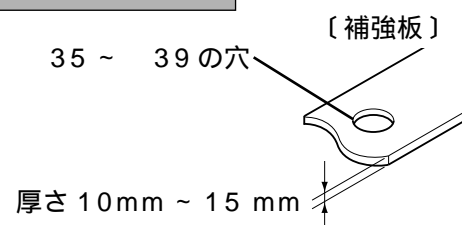
2 35 ~ 39 の穴をあける



- 穴あけ後、バリやエッジをヤスリなどできれいに取り除いてください。
- 穴あけ作業終了後は、くずをきれいに取り除いてください。

ステンレス製のワークトップで補強板が付いていない場合
(また、補強板が付いていても、ワークトップと合わせた厚さが 5 mm 以下の場合)

厚さ 10 mm ~ 15 mm の補強板に 35 ~ 39 の穴をあけ、ワークトップの内側に両面テープなどで取り付けて補強してください。

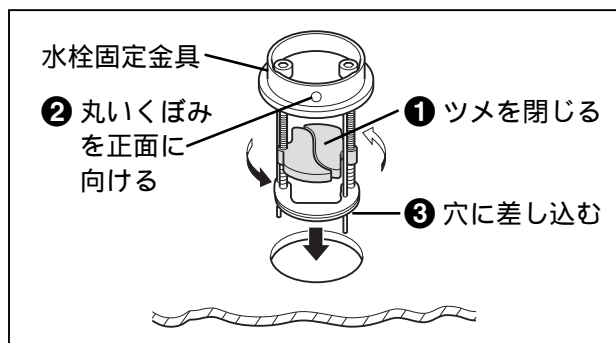


アルカリ用水栓の取り付け

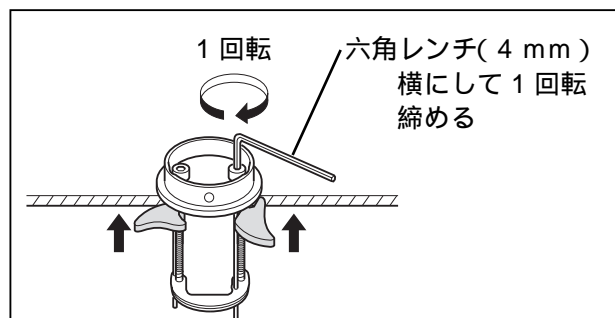
水栓固定金具(付属部品)を使い、ワークトップの穴にアルカリ用水栓(付属部品)を取り付けてください。

アルカリ用水栓を取り付ける前に、穴の周囲のごみや汚れをきれいに取り除いてください。

1 ワークトップの穴に、水栓固定金具を差し込む



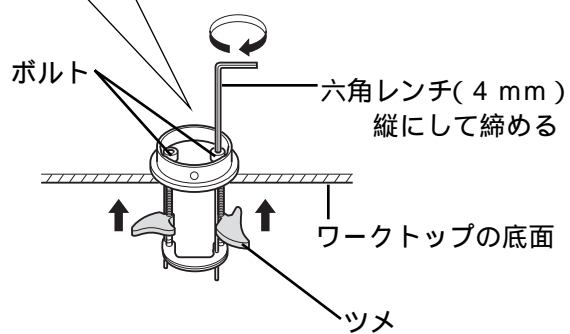
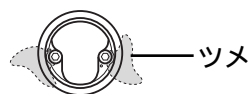
3 さらに締め付ける



締め付けが弱いと、アルカリ用水栓のガタツキや、流し台内部への水漏れの原因になります。締め付けトルクの目安は、 $2\text{ N}\cdot\text{m} \sim 3.4\text{ N}\cdot\text{m}$ です。

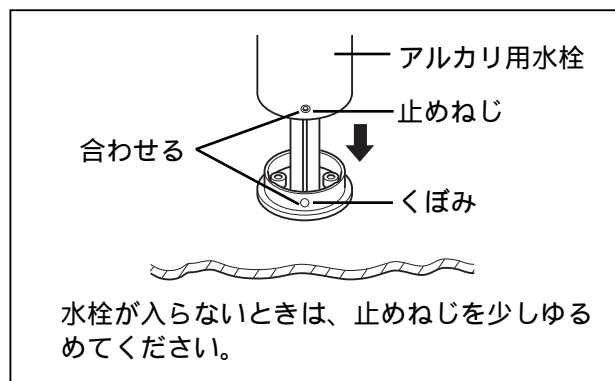
2 水栓固定金具のボルト(2 か所)を締める

穴を上からのぞいて、ツメがひろがっていることを確認してください。
(穴をのぞいてツメが見えていないことを確認してください。)
水栓固定金具の穴の中心が、ワークトップの穴の中心に合っているか確認してください。
(ずれているとキッチン内部への水漏れの原因になります。)



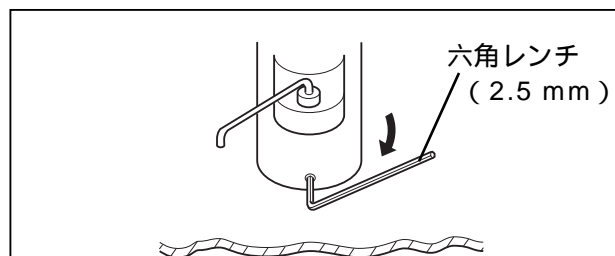
ボルトを締めると、ツメが上がります。ツメがワークトップの底面にあたり、ボルトが回らなくなるまで締めてください。

4 アルカリ用水栓を、水栓固定金具に差し込む



水栓が入らないときは、止めねじを少しゆるめてください。

5 アルカリ用水栓の止めねじを締め付ける



アルカリ用水栓に浮きがないか確認してください。

止めねじが、確実に水栓固定金具のくぼみにねじ込まれているか確認してください。
(止めねじの頭がアルカリ用水栓の面から出ないようにしてください。)

アルカリ本体の設置と接続

アルカリ本体をキャビネット内に設置し、止水栓とアルカリ用水栓に接続します。

カートリッジの交換およびカルシウム添加のため、右記のスペースの確保が必要です。

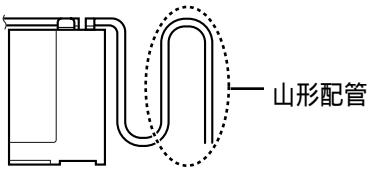
吐水ホース、排水ホース、給水ホースが折れ曲がらないようにしてください。
(水漏れや適切な pH 値の水が出ない原因になることがあります。)

吐水ホース、排水ホースは、山形配管にならないようにしてください。

適切な長さに切ってください。

(適切な pH 値の水が出ない原因になることがあります。)

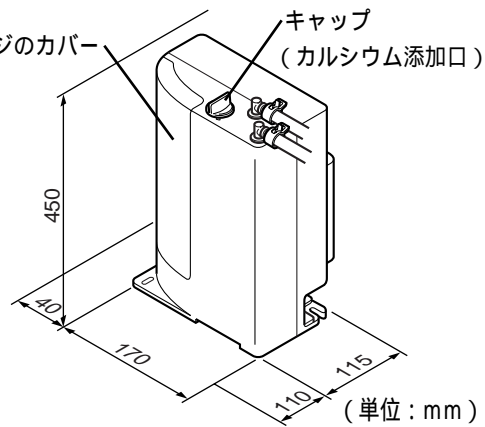
(悪い例)



配管終了後は、付属のホース固定バンド(2本)でホース類を固定してください。

配管終了後に本体が傾かないようにしてください。

[傾くときは、本体を固定してください。(20ページ参照)]



- 「アルカリ用水栓をキャビネット外(配管スペース)に取り付ける場合」は、配管用の貫通穴が必要になります。(19ページを参照してください。)

1 アルカリ本体に給水ホースを接続する (接続後は、給水ホースを引っぱって抜けないことを確認する)

注意

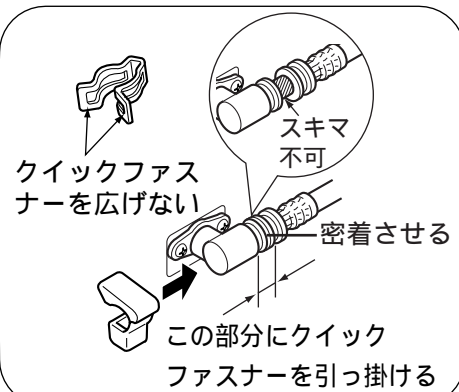
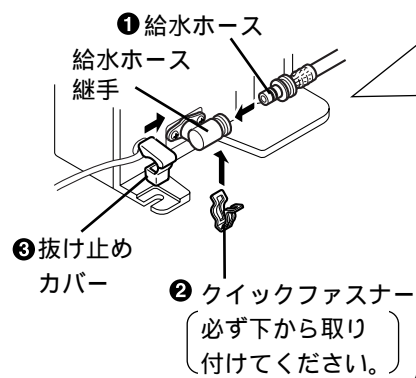
給水ホースは最後まで差し込み、クイックファスナー、抜け止めカバーを確実に取り付ける



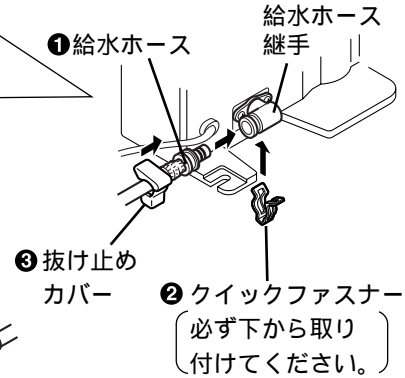
不備の場合、水漏れの原因になり、大きな補償問題になることがあります。

接続のしかた

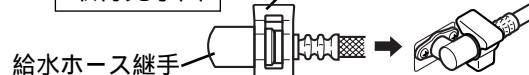
右側引き出しのとき



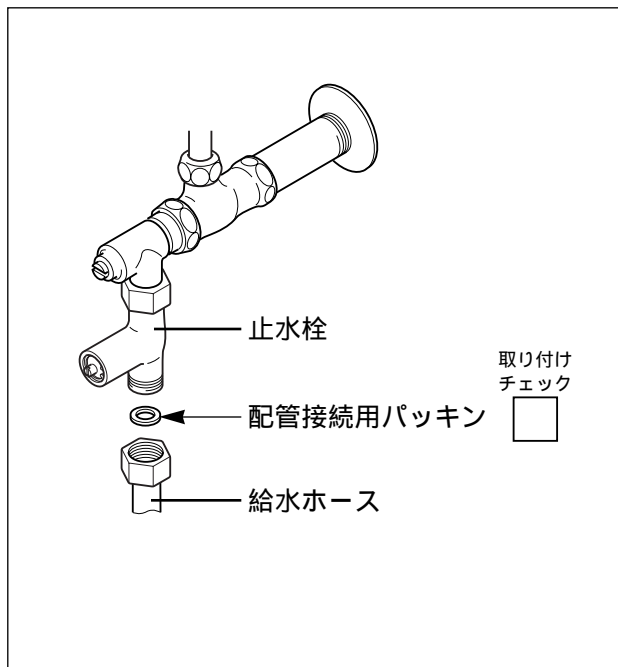
左側引き出しのとき



取付完了図

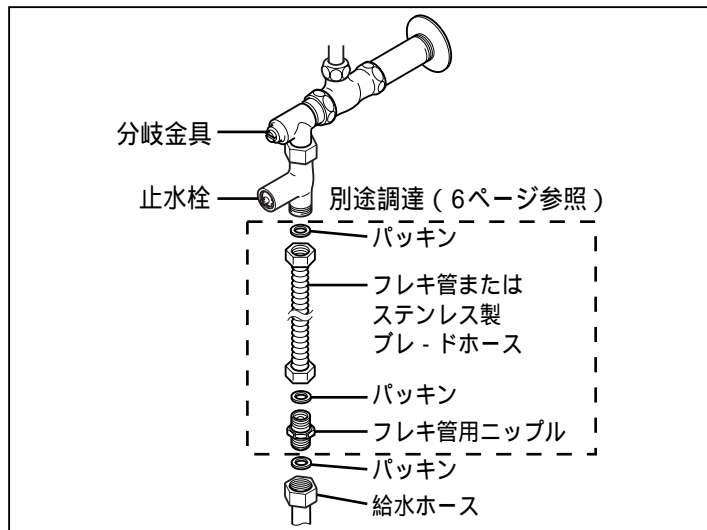


2 止水栓に給水ホースを接続する

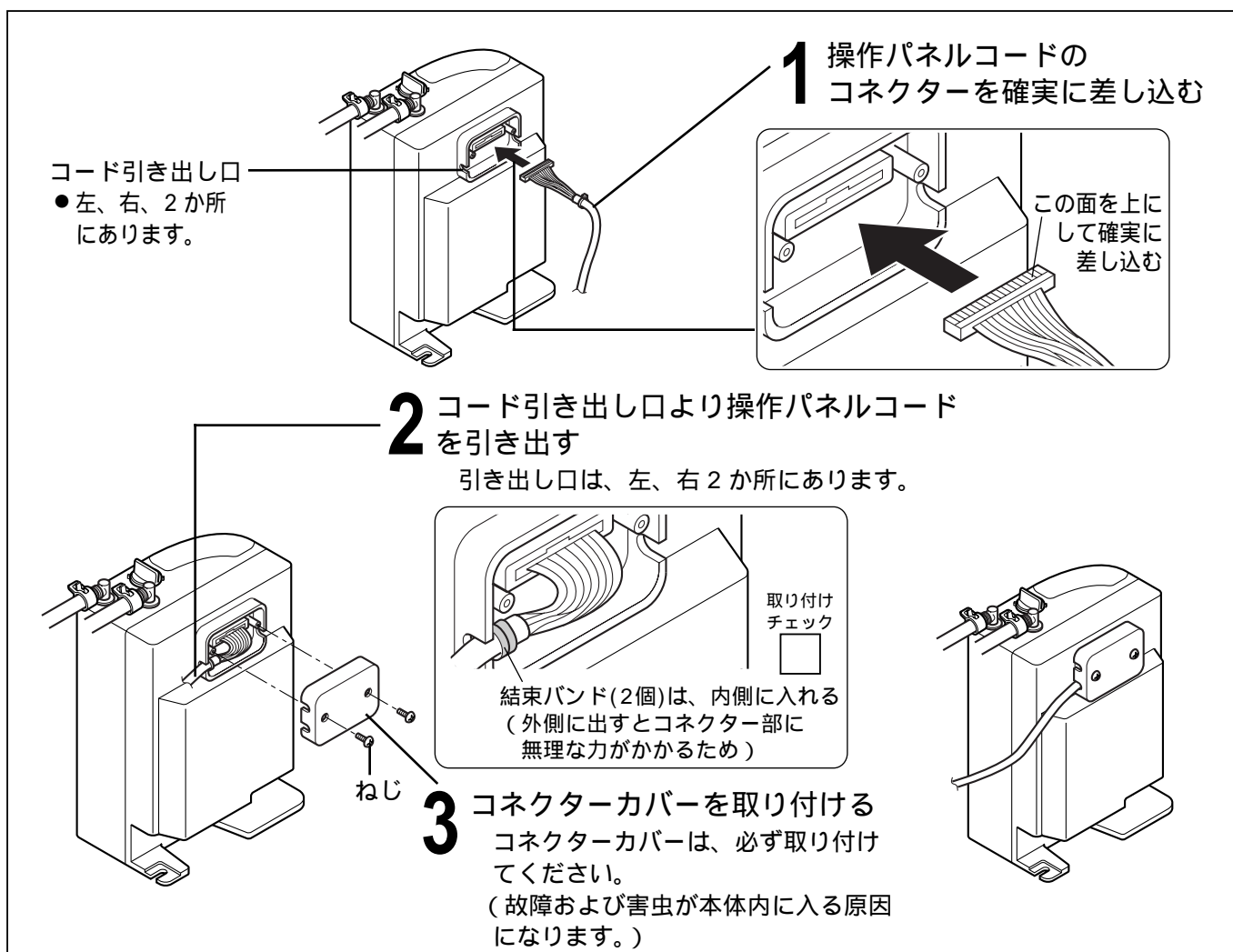


配管の延長が必要な場合

アルカリ本体は、吐水ホース、排水ホース（各々、約 940 mm）が届く範囲内に設置してください。
アルカリ本体と止水栓との距離が長い場合は、配管延長用に必要な部品（6 ページ参照）を別途調達し、配管してください。



3 アルカリ本体に操作パネルコードを接続する



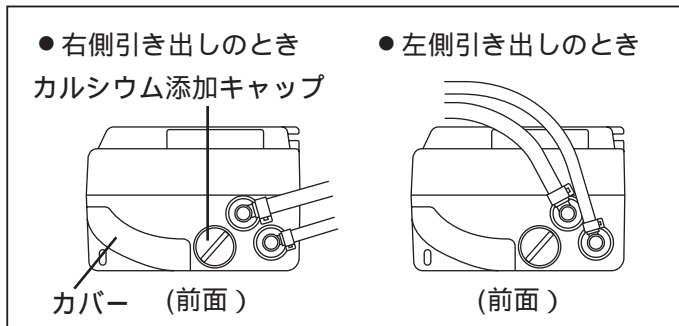
(次ページへつづく) 17

アルカリ本体の設置と接続

4 アルカリ用水栓と接続する



- 吐水ホース、排水ホースがカルシウム添加のキャップやカートリッジのカバーにかからないようにしてください。



操作パネルコード

- 各ホースは、以下のよう
に確実に接続してください。



排水ホース (うすいグレー)
折れ曲がらないように
してください。チェック

ホース締付バンド (小)

排水継手
・排水の
表示
あり

ホース締付バンド (大)

吐水継手
・吐水の表示あり

水漏れ
チェック

本体裏面

水漏れ
チェック

アルカリ用水栓

吐水ホース (濃いグレー)
折れ曲がらないように
してください。チェック

アルカリイオン水、浄水

水漏れ
チェック

水漏れ
チェック

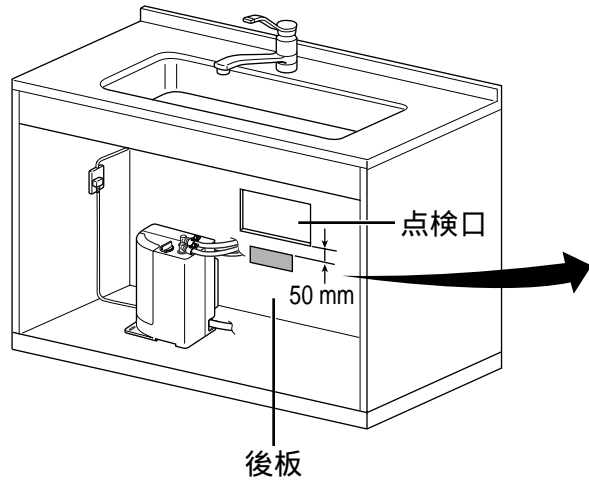
給水ホース
折れ曲がらないように
してください。チェック

アルカリ用水栓をキャビネット外(配管スペース)に取り付ける場合

点検口の近くに配管用の貫通穴をあけて、配管を接続してください。

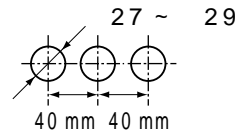
配管後は、貫通穴を防虫シート(付属部品)でふさいでください。

後板が穴加工可能なキャビネットのとき

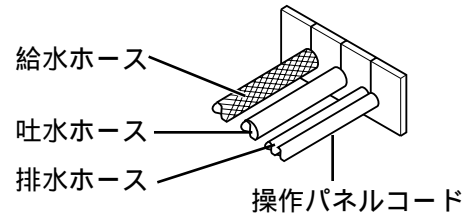


点検口は、必ず設けてください。

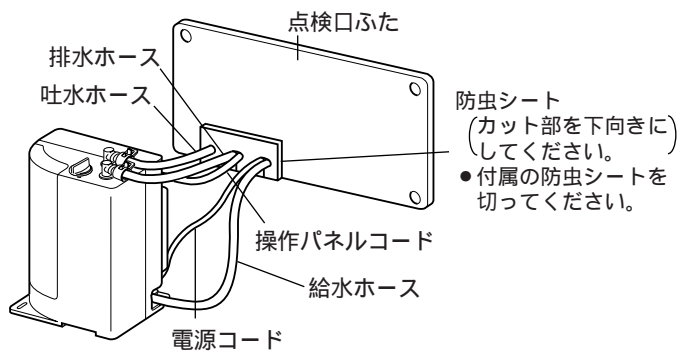
■の範囲内に、穴あけをしてください。



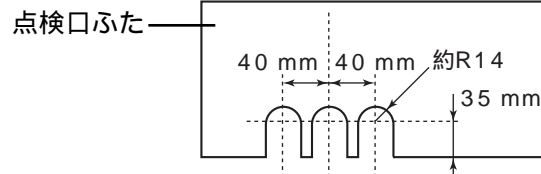
配管後、防虫シート(付属部品)を貼り付けてください。



後板が穴加工できないキャビネット(天然大理石・ホーローなど)のとき



点検口ふたを、切り欠いてください。



防虫シートは、必ずカット部を下向きにして貼り付けてください。

(上向きに貼ると、点検口ふたが取りはずせません。)

⚠ 注意

点検口は、必ずアルカリ用水栓を含む配管接続部全体が点検できるように設ける

- 次のような場合に止水栓の開閉が必要です。
 - 水道配管やアルカリ用水栓を含む配管接続部全体の水漏れ点検時
 - 止水栓のフィルター付パッキンの清掃時



万一、水漏れが起こると、大きな補償問題になることがあります。

- 点検口には、必ずふたをしてください。

(次ページへつづく) 19

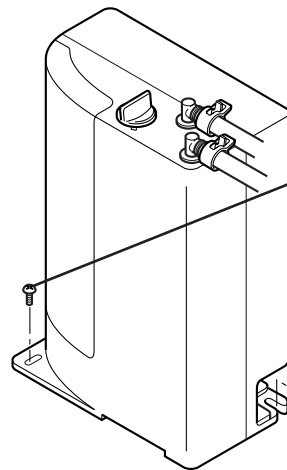
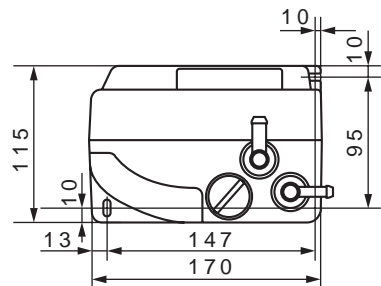
アルカリ本体の設置と接続

アルカリ本体の固定 / ずれ防止について

設置後、アルカリ本体が不安定なときは、下記、手順にてアルカリ本体を固定するか、L字金具を使用してずれ防止を行ってください。

アルカリ本体の固定

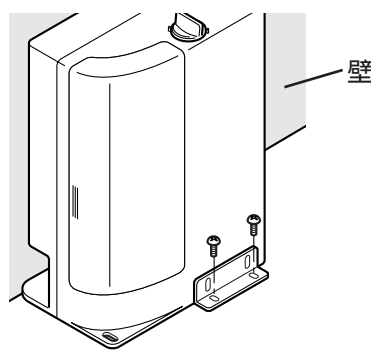
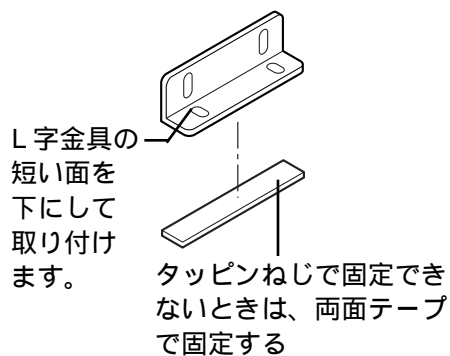
ねじ穴の位置図(単位: mm)



タッピンねじ(2本)で固定してください。

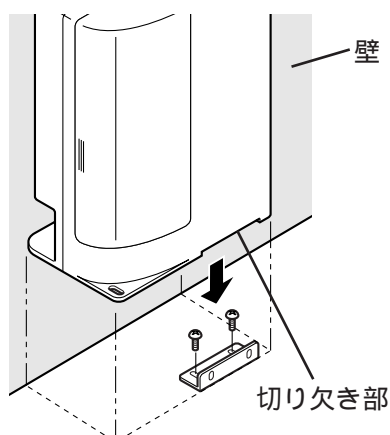
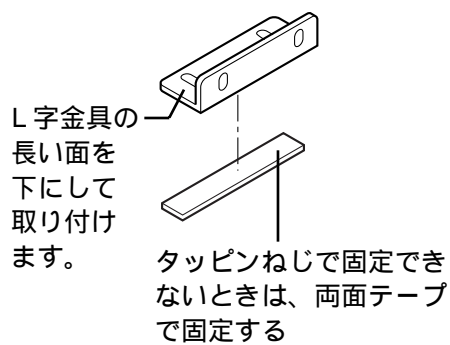
アルカリ本体のずれ防止について アルカリ本体が直接タッピンねじで固定できない場合)

L字金具をアルカリ本体の外に出す場合
(アルカリ本体前面にL字金具取付スペースがあるとき)



- 1 本体裏面を壁面にあてる
- 2 アルカリ本体前面にL字金具が当たるようにタッピンねじ、または両面テープで床に固定する

L字金具をアルカリ本体の下に入れ込む場合
(アルカリ本体前面にL字金具取付スペースがないとき)



- 1 本体裏面を壁面にあてる
- 2 アルカリ本体前面にL字金具が当たるようにタッピンねじ、または両面テープで床に固定する
- 3 アルカリ本体の切り欠き部にL字金具をあわせて、本体を設置する

最終点検（水漏れ、動作および通水量確認）

アルカリ本体に水を通す前に、必ず分岐金具の止水栓を開いて、アルカリ用水栓以外の水栓から水を出してください。

〔配管内のゴミなどを出すため（ゴミがアルカリ本体内蔵の電磁弁に詰まると、誤動作の原因になります。）〕

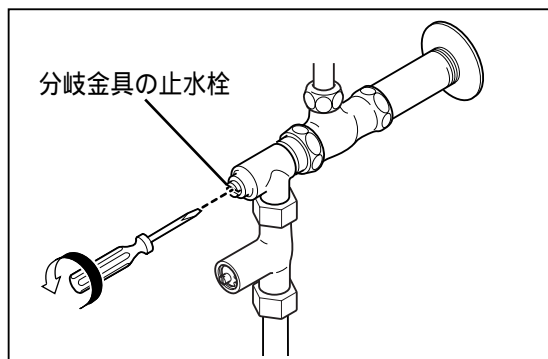
配管接続部の水漏れは、必ず「止水/通水」ボタンを数回押して、確認してください。

（通水後、1秒間は、止水できません。）

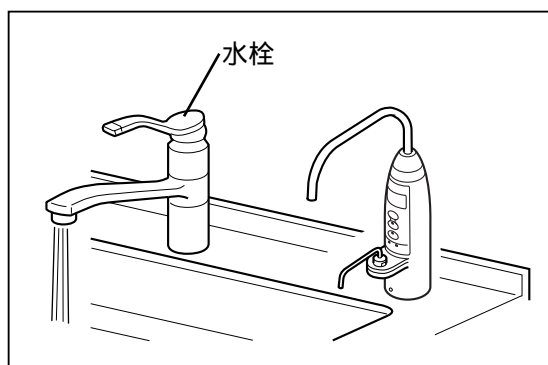
1 水道メーターの止水栓を開く チェック

13 ページ「手順 1」を参照してください。

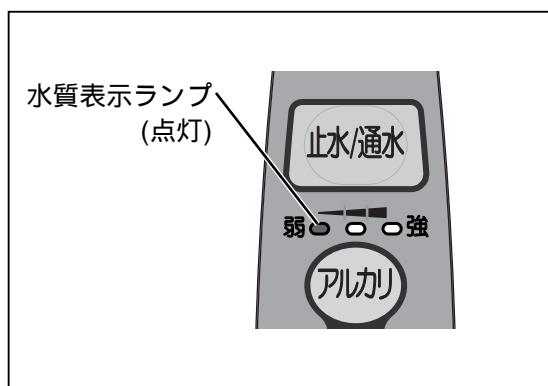
2 分岐金具の止水栓を開く チェック



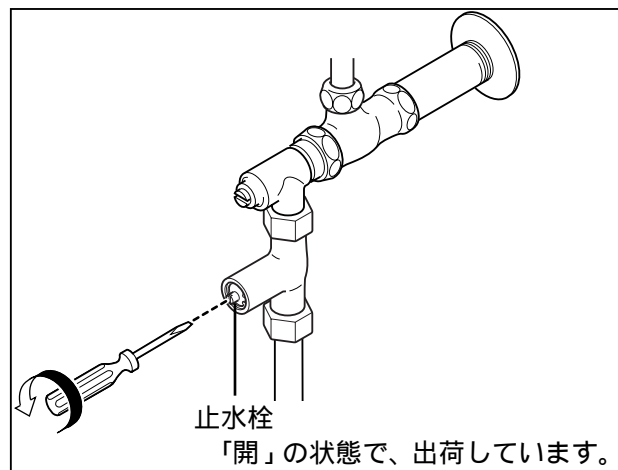
3 水栓を開く チェック
（配管内のごみなどを出すため）



4 アルカリ本体の電源プラグを、
コンセントに差し込む チェック
（「ピッ」とブザーが鳴る）



5 止水栓が開いているのを確認する チェック

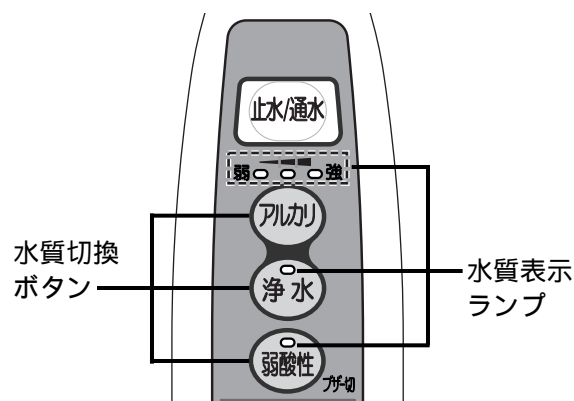


6 水質切換ボタンを押し、操作パネル
の動作を確認する チェック

下記の手順で水質切換ボタンを押し、選択した水質の水質表示ランプが点灯するか確認する

アルカリ (アルカリ「中」点灯) アルカリ (アルカリ「強」点灯) アルカリ (アルカリ「弱」点灯) 浄水 (浄水点灯) 弱酸性 (弱酸性点灯) アルカリ (アルカリ「弱」点灯)

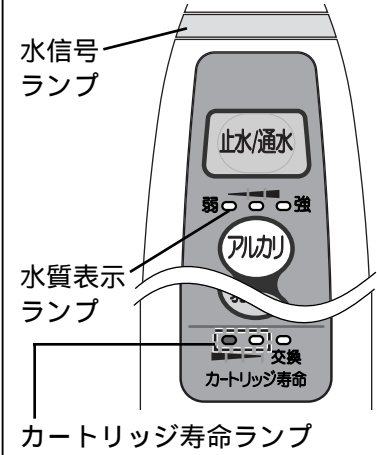
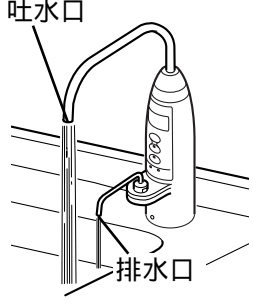
水質切換ボタンを押したとき、ブザーが「ピッ」と鳴るか確認する



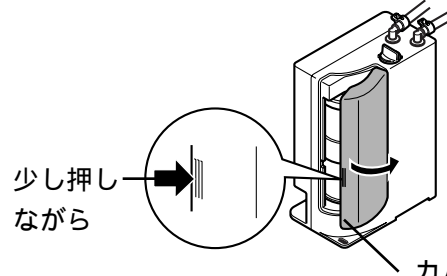
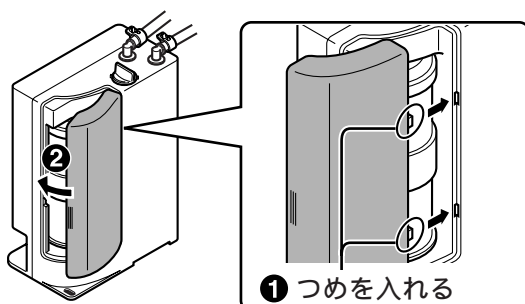
（次ページへつづく） 21

最終点検（水漏れ、動作および通水量確認）

7 「止水 / 通水」ボタンを押し、アルカリオン水を約 10 リットル(約 5 分間)流す (カートリッジ内の空気抜きのため) チェック

	<p>水信号ランプが約 26 秒間点滅後、点灯に変わります。</p> <p>水信号ランプとカートリッジ寿命ランプが、点灯していることを確認する チェック <input type="checkbox"/></p>	<p>排水口から水が出ていることを確認する (浄水時は、排水口から水は出ません。) チェック <input type="checkbox"/></p>  <p>水が出ていないときは、排水ホースが折れていないか確認してください。</p>
---	--	---

8 配管の接続部およびカートリッジ部分から水漏れがないか確認する (カートリッジからの水漏れは、アルカリ本体のカバーを開けて確認してください。) チェック

<p>(カバーのはずしかた)</p>  <p>少し押し ながら</p>	<p>(カバーの取り付けかた)</p>  <p>① つめを入れる</p>
--	--

9 通水量の確認を行う (23 ページ参照)



- 「止水 / 通水」ボタンを押しても水を止めても、吐水口および排水口からポタ、ポタと水が落ちることがありますが、異常ではありません。
- 弱酸性水を使用した後は、「止水 / 通水」ボタンを押しても、約 5 秒間水が出ます。(本体内の弱酸性水を排水しています。)
- pH 測定については、取扱説明書の 18 ページを参照してください。
- 工事・点検終了後は、止水していることを確認してください。



- 動作に異常がある場合は、操作パネルコードのコネクターが、確実に接続されているか確認してください。
- 点検終了後、シンクに付着した水はふき取ってください。(水あかやシンクの変色などの原因になることがあります。)

⚠ 注意


最終点検時は、アルカリ用水栓を含む配管接続部全体の水漏れ点検を十分に行う




万一、水漏れが起こると、大きな補償問題になることがあります。

通水量確認 チェック

下記、手順にてアルカリ本体への通水量が適正になっているか確認してください。
適正な通水量になっていなければ、適正になるように止水栓で調整してください。

1 電源プラグをコンセントから抜き  を押しながら再度、差し込む
（「ピー」とブザーが鳴る）
通水量確認モードに設定します。

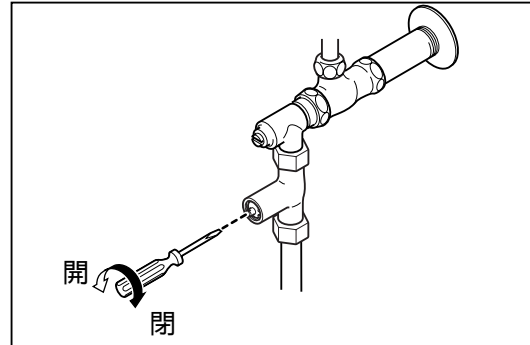
2 「止水 / 通水」ボタンを押し、通水し、通水量を確認する



通水量は、「アルカリ」の水質表示ランプとブザー音で確認する

通水量	水質表示ランプ	ブザー音
多い	アルカリ「強」点灯	ピーピー...
適正	アルカリ「中」点灯	ピー
少ない	アルカリ「弱」点灯	無音
少なすぎる	アルカリは点灯しない	無音

3 通水量が適正でないときは止水栓で調整する



4 電源プラグをコンセントから抜き、再度差し込む
（「ピッ」とブザーが鳴る） チェック
通常使用モードに設定します。



- 水圧が低い場所では、適正な通水量にならないことがあります。（水圧 100 kPa 未満）
そのときは、カートリッジ寿命が短くなることがありますので、お客様へご連絡ください。
- 通水量が少なすぎる場合は、電気分解をしません。

最終点検時トラブル対応表

トラブル	対応（チェック項目）	参照ページ
電源プラグをコンセントに差し込んで、操作パネルのランプが点灯しない	操作パネルコードのコネクターは、確実に接続されていますか？	17 ページ
操作パネルのボタン操作ができないまたは、動作に異常がある	操作パネルコードのコネクターは、確実に接続されていますか？	17 ページ
排水口から水が出ない	排水ホースが折れ曲がっていませんか？	18 ページ
	「浄水」にして通水していませんか？	22 ページ
	「通水量確認モード」にしていませんか？	23 ページ
水漏れしている	各配管の接続部は、ホース締付バンドやクイックファスナーで確実に締め付けていますか？	13、16、18 ページ
	止水栓のフィルター付パッキンは、正しい方向で取り付けられていますか？	13 ページ
「止水 / 通水」ボタンを押しても水が出ない	操作パネルコードのコネクターは、確実に接続されていますか？	17 ページ
	止水栓は、開いていますか？	21 ページ
「止水 / 通水」ボタンを押しても水が止まらない	操作パネルコードのコネクターは、確実に接続されていますか？ 水を止めても、吐水口および排水口からポタ、ポタと水が落ちることがありますが異常ではありません。	17 ページ
	止水栓のフィルター付パッキンは、取り付けられていますか？ ゴミがアルカリ本体内部の電磁弁に詰まると、止水できなくなります。	13 ページ

（次ページへつづく） 23

最終点検チェックリスト

チェック項目	チェック内容	チェック	
水漏れ	接続部から、水漏れしていないか	未・済	
	カートリッジ部から、水漏れしていないか	未・済	
	アルカリ用水栓部から、水漏れしていないか	未・済	
	本体から、水漏れしていないか	未・済	
動作	通水量確認後、通常使用モードに設定したか	未・済	
	各ボタンは、正しく動作するか	未・済	
	各ランプは、正しく点灯するか	未・済	
	水質切換ボタンを押したとき	① ブザーが鳴るか	未・済
		② 排水口から水が出るか	未・済
	通水量の確認を行い、適正だったか	未・済	
お客様への連絡事項			
チェック日	年 月 日	販売店	
		☎() -	
		担当者	

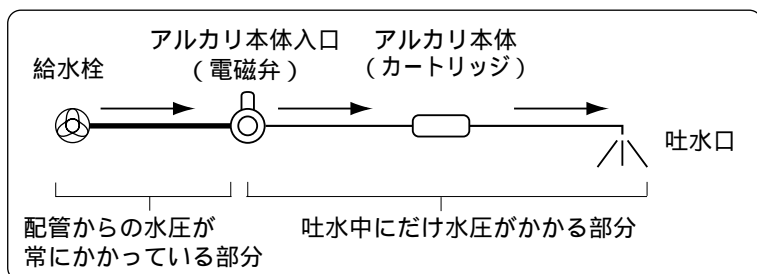


- 工事終了後、工事説明書は、最終点検チェックリストに必要事項を記入のうえ、取扱説明書・保証書・グリセロリン酸カルシウム製剤・pH測定試薬セットと一緒に必ずお客様にお渡しください。

配管方式について（参考）

本器は、工事説明書に従い、必ず「元止め方式」で配管してください。

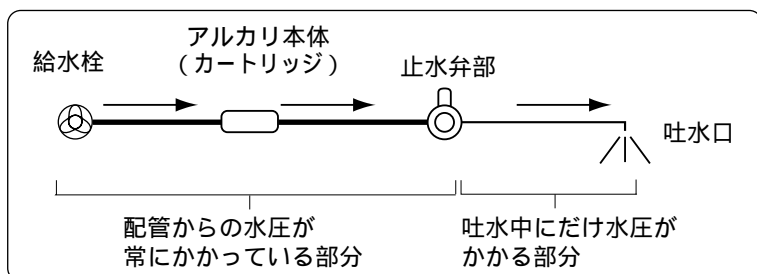
元止め方式とは...



吐水中にだけ、アルカリ本体(カートリッジ)に水圧がかかる方式

- お客様が不在のときなどの漏水事故で、過大な損害が発生することを防止する方式です。

先止め方式とは...（参考）



常にアルカリ本体(カートリッジ)に水圧がかかる方式

- 先止め方式は、「止水/通水」ボタンを押すと、すぐに水が止まります。

松下電器産業株式会社

〔製造元〕パナソニック コミュニケーションズ株式会社

〒812-8531 福岡市博多区美野島4丁目1番62号

〔サービス担当〕パナソニック コミュニケーションズ株式会社

デバイスカンパニー

〒830-0222 福岡県三潴郡城島町青木島438-1